

(以下、千代田区民の声を届ける会がファクタ出版株式会社の許諾を受け、月刊 FACTA3 月号より転載)

## 番町再開発の「恥部」/読売・日テレの尖兵「千代田区議」を逮捕!

「読売のドン」の息子と昵懇の利権屋区議が逮捕され物議騒然。すったもんだの末、番町再開発を強行採決!



逮捕された嶋崎秀彦区議

2024年3月号 DEEP [経済秘話 9]

読売新聞・日本テレビグループの「尖兵」を気取っていた男が警視庁に逮捕された。自民党の東京都千代田区議、嶋崎秀彦(64)。区役所の出入り業者に入札情報を漏らした官製談合防止法違反容疑である。そんな一介の利権屋区議の逮捕がいま、千代田区役所を揺るがしている。彼こそが、日テレが番町地 FACTA 区で企てている超高層ビル開発をそもそも仕掛けた男だからである。

### 副区長に入札情報の提供を促す

警視庁は1月24日、嶋崎秀彦とともに千代田区役所の元行政管理担当部長・吉村以津己(いづみ)(61)を逮捕した。容疑事実は、千代田区が2020年5月、区立お茶の水小学校・幼稚園の給排水衛生設備工事と空調設備工事の一般競争入札を実施した際に、最低制限価格や入札に参加する業者に関する情報を、設備工事会社「五建工業」(千代田区内神田)と配管工事会社「日管」(浜松市)にそれぞれ漏らした、というものである。



超高層ビルが建つ予定の日テレ跡地

お茶の水小の給排水衛生設備工事の入札は、なるほど、五建工業による共同企業体のたった1事業者だけが入札に参加し、

予定価格の99.9%という6億6880万円で落札している。五建工業は、ほかの業者が入札に参加せず、自分たちしか入札しない、という情報が喉から手が出るほど欲しかったに違いない。ライバルが不在で自分たちしか参加しないと分かったゆえに、99.9%という高い金額で落札できるからである。

同じく日管が参加した同小の空調設備工事の入札では、他の2つの事業者が同じ6億2238万4000円を示し、日管はそれよりわずか7万円余り低い金額で落札している。競合2社が千円の位までピタッと同一金額で入札する偶然なんてめったにない。さすがに翌月の区議会で「これ談合の可能性大ですよ」「これだけの規模の公共工事で複数の業者が同額を示してきた事例って知らない」(共産党の木村正明区議=当時=)と怪しむ声があがるのも当然である。

嶋崎に入札情報を提供するよう促したのは、当時の山口正紀副区長であった。日大理工学部卒の区役所プロパー。まちづくり推進部長などを経て、生え抜きトップの副区長のポストを射止めた人物である。

逮捕された吉村以津己は行政管理担当部長に就任後の18年4月、山口に副区長室に来るように呼ばれ、「嶋崎さんから契約の関係を尋ねられたら教えてやってほしい」と命じられている。「今までもそうしてきたから、キミもそのように対応してほしい」と山口。吉村は、明らかに違法な慣行がずいぶん前から続いていることに驚いた。山口の命令もあって、こわもての嶋崎から頼まれると断ることができなかった。彼は「少なくとも4、5回、入札情報を漏らした」と東京新聞の取材に答えている。おそらく、もっとあったろう。

「いまだき、こんな細かな工事案件に介入するなんて」。千代田区内の大型再開発に反対してきた市民派の小枝すみ子区議が驚くのも無理はない。嶋崎は千代田区内の空調、給排水など「管」にまつわる工事の調整役と口利きを長年やってきたようなのだ。



悪事を暴露する告発文書

実は警視庁には22年8月、嶋崎の悪事を暴露する内部告発文書が届いている。その前月の7月、江東区の区議が区役所の職員に業務委託契約の情報を漏らすよう働きかけ、業者側から見返りに30万円をもらっていたことが明るみに出ている。それと同じ構図が千代田区にあることを憂えた「千代田区 元契約課 職員有志」が警察にタレ込んだのである。

内部告発文にはこうある。

「嶋崎秀彦区議は、歴代の契約担当の幹部職員に対し、公共施設建設に伴う管工事にかかわる部分について、入札業者名を聞き出し、その情報を自身と関係のある管工事業者に伝え、便宜供与を行っています。

嶋崎区議は元区議会議長であり、これまでの契約担当の幹部職員は、嶋崎区議本人および事務方トップである山口副区長の指示によって、こうした違法ともいえる行為に従わざるを得ない状況にありました。

また嶋崎区議は、現在計画されている区内の各種再開発事業にも深くかかわり、区幹部職員と連携して暗躍しています。今般の江東区議の報道を受け、8月に入って嶋崎区議は当該行為にかかわった幹部職員に対し、隠蔽のための連絡をしていることから、区議本人は自身が違法行為を行っているという認識があると考えられます」(編集部注/文意を損ねない程度で文章のおかしなところを修正した)

## 「読売のドン」の息子と番町小の同級生

内部告発には、過去 5 年間の契約担当幹部リストも付記されてあった。その中には逮捕された吉村の名前もある。職員有志は「その人たちに聞けば真相がわかるはず」と警察を誘導しているのである。

内部告発にはさらに、嶋崎から情報提供の働きかけがあった工事案件リストまで載っていた。先述のお茶の水小の 2 件の工事のほかに、

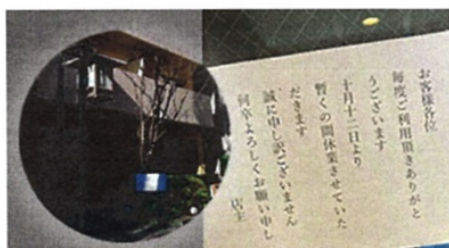
▽西神田併設庁舎空調改修工事(落札者・三辰工業 4980 万円)

▽外神田公共施設新築給排水・空調設備工事(落札者・城口東洋建設共同企業体 4 億 4800 万円)

▽四番町公共施設新築空調設備工事(落札者・一工・丹野建設共同企業体 4 億 6800 万円)

▽四番町公共施設新築給排水衛生設備工事(落札者・金澤・武蔵野建設共同企業体 3 億 9500 万円)——とある。

ここまでの情報を提供してやったのに、なかなか警視庁が腰をあげないようだと見ると、同年 10 月に二発目の内部告発文書が警視庁に向かって放たれている。さすがに警視庁は無視しえず、関係する人たちへの事情聴取をひそかに始めている。その過程で入札価格の積算を担当していた若い職員が自殺した。まだ小さな子がいるという。皮肉なことに、不正行為を指示した山口副区長の親族だった。不正行為に加担させられたことを苦しめたのか、個人的な事情なのか、はっきりわかっていない。



休業した蕎麦店

捜査の進展に大慌てに慌てたのが嶋崎だった。区役所の関係する部署に「警察になんて聞かれた?」「俺はそんなことを言っていないよね?」などと電話をかけまくっている。昨年 10 月には区議会に「体調不良のため、しばらく静養したい」と連絡を入れ、雲隠れした。自身が営む九段の日本蕎麦店「ゑん重」にも「10 月 12 日より暫く休業させていただきます」と貼り紙をし、店を閉じた。

嶋崎は高校卒業後、店を継いだ蕎麦屋の三代目である。「単なるお祭り好きな男ですよ。とても賢いとは言えない。『ガッテンだ』と突然走り出したはいいが、三步も進むと『あれっ? なんだったっけ』と忘れてしまう人」と同僚の保守系区議は評する。

そんな彼がのし上がっていったのは、読売グループの総帥、渡邊恒雄の息子、睦と番町小学校の同級生だったからである。嶋崎は 2003 年に区議に初当選して数年後、中央三井信託銀行に勤務していた旧友の渡邊睦、そして知り合いの不動産業者の合計 3 人で連れ立って、日テレの氏家齋一郎会長(故人)のもとを訪ね、二番町の日テレ本社ビル周辺の再開発を提案している。

「そこからですよ。ウチが異常な不動産開発にのめり込むようになったのは、社内では“ナベツネ案件”と呼ばれていました」——。日本テレビの総務畑の元幹部はそう打ち明ける。

ナベツネは妻に先立たれると、息子を頼るようになり、睦の提案に関心を持ったらしい。睦は社内で得点をあげようと父のナベツネの威光を笠に着て、読売グループの企業に平気で営業に行くような男だった。

「読売新聞本体にはさすがに遠慮したのですが、日テレには他の案件でも営業に来ましたよ」と、日テレの総務系の元幹部は呆れる。そんな総帥の意向が日テレにも伝わってくる。

嶋崎も自身の蕎麦屋を6階建ての「嶋崎ビル」に建て替え、賃貸業に乗り出していた。かつての蕎麦屋の出前持ちは、もはや不動産開発の旨味を覚えるようになっていた。彼の蕎麦屋はJR市ヶ谷駅と番町地区のちょうど中間にある。「この付近一帯を再開発したいという野心があるようで、地元の不動産屋とつるんでいました」と日テレの元幹部は振り返る。渡邊睦が父ナベツネの七光りを利用し、嶋崎はその睦の七光りを利用する。二重の「七光り」なのである。

## 「俺のバックには読売がいるんだ!」



千代田区役所

嶋崎を政治的に引き立ててきたのが、都議会のドンといわれた自民党の内田茂都議(千代田区選出・2022年死去)だった。嶋崎は内田に気に入られようと、運転手を買って出ている。要は内田の腰巾着である。自らを内田のイチの子分と任じていた。日テレ周辺の再開発の話の内田が嗅ぎつけ、「どうせならば、まず町会長あたりを集めて“まちづくり”を考える委員会のようなものを、こしらえたらどうか」と知恵を出す。内田のそんな意向を受けて番町地区の町会長らを抱き込んでいったのが嶋崎だった。日テレの再開発計画にあたって、地元対策および、区役所の環境まちづくり部など開発部署との連携役を買って出た格好である。とはいえ無理筋な再開発計画で反対運動が次第に高まっていく。

朝日新聞の記者が嶋崎に取材を申し込むと、「**ナニ、朝日？ 俺のバックには読売がついているんだ。取材なんか受けられるか。反対派がなにをしゃべっているか全部教えてくれるのが取材の条件だ**」と、すごんだという。この朝日記者は「いまどきこんなことを言う区議がいるんだと驚きでした。あまりにバカバカしいので、彼への取材はあきらめました。日テレはもっとマシなのを使うべきですよ。まあ、読売新聞らしいですね」と笑う。高卒の蕎麦屋の出前持ちは、「俺は凄いい」とすっかり勘違いしていたのである。

その勘違いは、さらに拍車がかかっていった。内田が病魔に侵されると、さしもの権勢を誇った彼も

次第に影響力を失っていった。加えて千代田区長の石川雅己も、自身の妻子が一般には販売されない高級マンションのフロアを秘かに三井不動産から取得していたという醜聞が発覚。区議会は百条委員会を設けて追及し、石川の家族ぐるみの「たかり体質」が白日の下にさらけ出された。結局、石川は 21 年の区長選への出馬を断念し、引退に追い込まれている。内田と石川という 2 人の重しが千代田区政からなくなると、嶋崎は「これからは俺が仕切る」と言い出すようになった。



樋口高顕千代田区長 (HPより)

石川のあと区長に就いた樋口高顕(41)は、小池百合子の秘書出身という彼女の秘蔵っ子。都議を経て区長に就任したものの、千代田区の事情に明るいわけではない。いきおい樋口が頼ったのが、区職員出身の坂田融朗(みちあき)副区長(山口前副区長の後任)であり、その坂田と気脈を通じ、区議会の保守系会派で大きな顔をしている嶋崎であった。「いまの区政は、坂田さんと嶋崎さんが完全に牛耳っています。樋口区長は単なる傀儡です」。そうベテランの千代田区議は評する。警視庁が 1 月 24 日に家宅搜索した千代田区役所の各部署のなかで、もっとも念入りに搜索が行われたのは坂田副区長室であった。嶋崎と二人三脚をしてきた彼の部屋へのガサ入れは、実に 3 時間にも及んだという。

嶋崎が資金作りや人脈作りに盛んに利用しているのが、「異業種交流会」と称するパーティーである。21 年には 200 万円を、22 年には 476 万円をそれぞれ集めている。背後に千代田区内の大型再開発に関与している設計会社の名前がちらつく。その半面、自民党区議連絡協議会長を務めたことがあるせいか、21 年には都内の自民党の 23 人の区議、市議に 38 万円ほど寄付をしている。気前良くおカネをあげるには、どこかで原資となる金をつくる必要があっただろう。業者に情報を漏らして小遣い稼ぎをしなければならないわけである。

## 樋口区長は坂田・嶋崎の「傀儡」

嶋崎はこの数年、「再開発はすべて俺を通せ」と言い出し、区内の再開発案件の窓口役を自称している。小さな公共事業の口利きにあきたらなくなつたうえ、内田と石川という重しがなくなり、のぼせあがったからだろう。嶋崎と気脈を通じる坂田融朗副区長は、そんな嶋崎の意向が伝わるのか、反対派住民を一顧だにしない開発強硬派として知られる。

坂田はまず、千代田区内の白山通り、明治通り、神田警察通りの合計 300 本の街路樹の伐採計画を打ち出した。沿道で猛反対が起きたが、計画を撤回する気はない。

さらに JR 秋葉原駅そばの電気街を高層ビル化する外神田 2 丁目の再開発計画では、区の都市計画審議会でも採決を強行するという荒業に踏み切り、警察署長らが中立を宣言して棄権す

るなか、8 対 7 の僅差で開発にゴーサインを下した。「ふつう都計審といえば、下で積み上げてきた議論を学識経験者らが承認する場ですよ。そこで賛否を取って採決するとは本当にびっくりしました」(保守系区議)。



再開発計画を強行採決した千代田区都市計画審議会 (2月8日)

ついに 2 月 8 日の都計審でも、延々 4 時間の審議のすえ、同じように日テレの再開発計画を強行採決した。ふつうは賛否の二択なのに、賛成 4 票、反対 5 票、「付帯決議つき賛成」8 票という珍しい三択で決をとった。付帯決議の内容は次回の都計審で決めることにし、どんな条件が付されるのかわからないのにもかかわらず、とりあえず「賛成」多数として押し切ったのだ。

これによって日テレは、本来 60 メートルまでの高さしか建てられない二番町の予定地に、80 メートルの高さの高層ビルを建設できるようになる。

朝日、東京の 2 紙がその結果を短く報じただけで、マスコミ各社の報道は少なかった。読売・日テレはもちろん、自らのごり押しを報じることはなかった。

(以上)